

楽しく聴いて知るコンサート

歌でつなぐ憲法の話

【平成29年度 武蔵野美術大学教育改革助成プログラム・
美術教育の一環としての法学・社会倫理教育の改善】

志田陽子

演奏 CC KK Duo

(沼館千佳子+アンジェロ・デ・ローザ)

「レ・ミゼラブル」の夢



匿名美術家バンクシーが描いた壁画。難民が置かれた状況を現在の「レ・ミゼラブル」として表現。

物語中、最貧の立場に転落した女が、一人娘の養育をジャン・バルジャンに託して死んでいきます。

幼い娘は、ジャンに会えなければどうなっていたでしょう。「児童労働の禁止」と「社会福祉」「教育福祉」の問題が描かれています。



「流れを変えるぞ！」と決心し、希望に燃えて行動した人々が、現実に直面して打ちひしがれる。

世界の憲法の歩みは、何百年もの時間をかけて、そういう思考錯誤の中で作られてきました。

ユゴーの小説「レ・ミゼラブル」は、フランス革命後の悲惨な社会状況を「もう一度変えたい」と考えて立ち上がった人々の、希望と悲劇を描いた物語です。

この物語の中の主要人物はほとんど死んでいいますが、その後、世界は200年の時間をかけて、彼らが願った福祉のある社会、人権侵害を防ぐルールを持つ社会へと発展してきました。

小説家ユゴーがこの物語に託した「夢」とは…

OLD BLACK JOE

Foster作 1853

世界中で民主主義と平等を実現し、それを確認する「憲法」の制定が広まった19世紀、現実の社会にはまだ多くの矛盾がありました。

フランス革命後のフランスでは貧困問題があり、アメリカでは、貴族身分は認めないとする「平等」を実現はしたものの、「自由人」と「奴隷」という身分制度が残ってしまいました。

18世紀から19世紀アメリカの歌には、奴隷制のもとにあった黒人、奴隷解放のあとにさらに貧困に追い込まれた黒人の様子が多く描かれています。

有名なOld Black Joe も、その中の一つです。

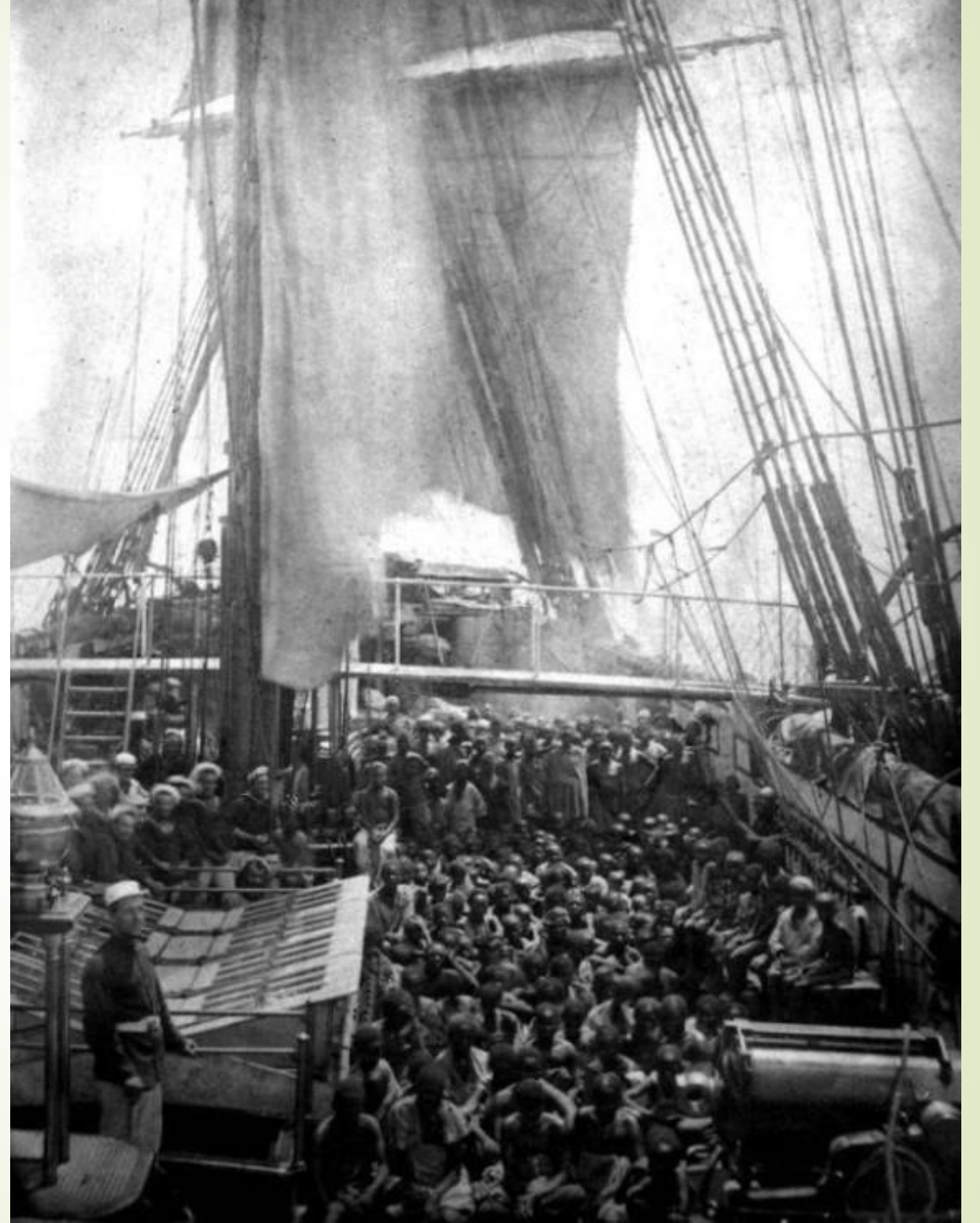



「友達は綿花畑から天
へと去っていった。
私も年をとった。
彼らが優しく呼びかけ
る声が聞こえてくえ
る…」

優しい言葉ですが、死
を待ち望む歌です。

奴隷制度の下では、黒人は、自殺することを厳しく禁じられていました。奴隷船の中でも鎖でつながれ続けていたのは、海に身を投げて自殺することを防ぐためでした。

奴隷船に詰め込まれた人間たち⇒





憲法は、こうした状況を克服する過程でできてきた文書です。日本国憲法もその流れの中にあります。

人間は平等である、不当に拘束して奴隷として使ったりしてはいけない、ということは、今では「日本国憲法」18条（奴隷的拘束の禁止）や14条（法の下での平等）や27条、28条（労働者の権利）で保障されている当たり前のルールです。

しかし、このルールを確立するにも、人類は大変な時間と労力を必要としました。奴隷制と奴隷貿易は、19世紀まで、大変な利益を生み出す「産業」だったからです。


Amazing Grace

(アメイジング・グレイス)

18世紀末から19世紀にかけて、この奴隷貿易を禁止するルールを作るために、イギリス議会で少数派の議員たちが生涯を賭けた様子が映画『アメイジング・グレイス』に描かれています。

(2006年、英国議会の奴隷貿易廃止決議200年記念して製作された映画です)





この奴隷制廃止運動の中で歌われたシンボル・ソングが Amazing Grace です。この歌の歌詞は、18世紀イギリスで、牧師ジョン・ニュートンが作ったものです。彼は奴隷貿易船の元船長でその罪を悟って牧師となり、その後、自分の非道な行いを悔いて賛美歌のメロディにこの歌詞をつけたと伝えられています。

Amazing Grace, How sweet the sound,
That saved wretch like me
I once was lost but now I'm found,
Was blind but now I see

18世紀イギリスでは、奴隷制度は、大きな経済的利益になっていたため、議会も奴隷制度を守ろうとしていました。

奴隷貿易反対派は、議会では少数派でしたが、市民の間で「アメイジング・グレイス」が流行り、これで大量の署名が集まったと言われています。

参考文献：

ジョン・ニュートン（著）、中澤幸夫（著・訳）『増補版「アメイジング・グレイス」物語: ゴスペルに秘められた元奴隷商人の自伝』 2012年



やがて奴隷貿易は違法行為として禁止されるようになり、奴隷制度そのものも廃止され、奴隷を所有することも禁止されていきます。



奴隷制廃止の流れは世界に広まり、イギリスより半世紀遅れて、アメリカでも実現します。

南北戦争の終わり、議会で奴隷制廃止の賛同者を増やすためにリンカーンが苦勞する様子が、映画『リンカーン』に描かれています。

人身売買の禁止は、今も、国際社会における人権の最重要課題です。





人権は普遍的だ、ということの意味

人権保障の最小限の共通内容は、それぞれの国の憲法を超えて、国際社会共通のルールに。

「日本国憲法」も、この流れを汲んでいます。

前文「平和のうちに生きる権利」

18条「奴隷的拘束の禁止」

14条「法の下での平等」

国家が守るべき倫理を確認しよう

どんなに「利益＝国益」となることでも、人の生命・人生を「モノ」として利用することを、国家がやってはいけない。この倫理的限界をルールとして国家に守らせる法が「憲法」。

現在の技術・経済先進国における課題を、この問題系で考えてみると、どうなるでしょう…

課題はまだまだ・・・

「レ・ミゼラブル」再び。

人種差別克服の次に、人類がその深刻さに気づいたのが、女性や児童に関する差別の克服と、権利保障の問題でした。




女性の労働、人生設計、そして参政権

女性の参政権がなかった時代には、女性の権利（とくに労働条件や家族間での平等）を守るための法律が必要という声が、政治の場に伝わらなかったのです。

だから女性の政治的権利の保障は、何よりも大切な課題でした。





そして庶民の暮らしの底辺で起きていたことを伝える民謡が残っています・・・

今ではアニマルズがヒットさせたバージョンが有名ですが、もとは、作者不詳の民謡でした。民謡として歌い継がれてきたということは、このような人生を実際に送った人々が歌い継いできたということでしょう。

朝日のあたる家

The House of Rising Sun



それは家庭でも社会でも経済活動の主体となることができず、家庭内暴力に苦しみ、流浪の果てに売春婦になるしかなかった女性たちのことを歌った歌でした。



国や自治体の支援のないところでは、こうした女性たちは声を上げられないまま転落していくしかなくなるのです。

(写真提供・豊田直巳さん)

日本の歴史の中にも・・・

遊郭を描いた浮世絵。
絵画自体は今では芸術として親しまれ、その価値は揺るぎませんが、そこに描かれた現実には、私たちが繰り返してはならない人身売買と「人身の拘束」です。

鳥居清長の版画:美南見十二候九月(漁火)遊廓で遊女がくつろいでいる図。
千葉市美術館所蔵。⇒



- ▶ このような現実が世界中にあったために、これを軌道修正するために、家庭内暴力（DV）防止法や、国連女性差別撤廃条約があります。
- ▶ そして日本国憲法24条も、家族・婚姻の制度を存続させつつ、それが女性を従属的状态に置くような制度にならないように法律を整えることを、国家に対して命じています。
- ▶ 女性にとっての安全で平和な生活とは、まず、暴力を禁止し、暴力を恐れて貧困へ転落することを防ぐことから始めなければならなかったのです。「人間の安全保障」の一場面といえます。

国連女性差別撤廃条約

(女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約)


(前文) …女性に対する差別は…

女子の潜在能力を自国及び人類に役立てる…ことを一層困難にする。

窮乏の状況においては、女子が食糧、健康、教育、雇用のための訓練及び機会並びに他の必要とするものを享受する機会が最も少ない。

このために「必要な措置」をとることを決意した。

(その措置を、各国は、実践することが求められている)。



配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（平成13年制定）（日本の国内法）

…配偶者からの暴力は、…重大な人権侵害である…。

…被害者を保護するための施策を講ずること…は、女性に対する暴力を根絶しようとしている国際社会における取組にも沿うものである。

配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備することにより、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図る…。


日本国憲法24条

〔家族関係における個人の尊厳と両性の平等〕

第24条 婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。

② 配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。

☆婚姻の自由だけでなく、その後の自由・平等も視野に。



このスライドは講演の一部抜粋です。

このスライドは、【平成29年度 武蔵野美術大学教育改革助成プログラム・美術教育の一環としての法学・社会倫理教育の改善】の成果の一部です。

資料収集および写真・イラスト作成、スライド作成（レイアウト等）について、上記研究助成とともに武蔵野美術大学学生の協力を得ました。

文責 志田陽子

（武蔵野美術大学造形学部 教授）